

設置計画の概要

事項	記入欄
設置手続きの種類	事前伺い
計画の区分	学部/学科の設置
フリガナ	コクリツダイガクホウシツ トウキョウノウコウダイガク
設置者	国立大学法人 東京農工大学
フリガナ	トウキョウノウコウダイガク
大学の名称	東京農工大学 (Tokyo University of Agriculture and Technology)
新設学部等において養成する人材像	<p>①養成する人材像</p> <p>(1) 獣医師としての任務を遂行するため、高度な専門的知識のみならず、低学年次からの導入教育により論理性や倫理性を兼ね備えた高い行動規範を持つ人材を養成する。</p> <p>(2) 動物の健康・福祉、公衆衛生などに関する実践力を兼ね備えた、基礎的な知識・技能を持つ人材を養成する。</p> <p>(3) 生命現象の解明を基盤とする生命科学や応用開発等において、獣医学を基礎とした問題解決能力を持つ人材を養成する。</p> <p>(4) 地球規模での感染症や畜産物の安全確保などに対して貢献する、知識・技能を持つ人材を養成する。</p> <p>②教育研究上の学習目標</p> <p>(1) 獣医師の任務を遂行する上で必要な倫理性および論理性を涵養し、さらに獣医事の法的基盤を理解する。その上で、生命の基本的な成り立ち、正常な個体の構造と機能、恒常性維持機構を、分子レベルから個体レベルで習得する。</p> <p>(2) 生体の恒常性を乱す多様な外的要因(細菌、ウイルス、真菌、寄生虫等の病原体)について、その性状と疾病への関わりについて幅広い知識を修得し、また、遺伝病、代謝病、腫瘍などの疾病の発生機序を理解することを通じて疾病発生機構を理解する。</p> <p>(3) ヒトと動物の両者に疾病を引き起こす物理学的、化学的、生物学的危害要因について学習し、これらを制御する方策を修得することにより、動物とヒトの疾病予防の理論と実技を修得する。</p> <p>(4) 各種動物疾病の病態把握、的確な診断、治療および予防の理論を修得する。さらに、実践的参加型臨床実習により、高度化する小動物獣医療に必要な知識・技術と共に、畜産振興と食の安全を両立させるための大動物獣医療に必要な知識・技術を修得する。</p> <p>③卒業後の進路など</p> <p>国家公務員(1種(獣医職))、地方公務員(獣医職)、民間企業(製薬、乳業、飼料、食品、動物園、水族館、サファリパーク)、農業法人、農業団体(NOSAI)、小動物病院、大学院</p>
既設学部等において養成する人材像	<p>①養成する人材像</p> <p>(1) 21世紀の人口・食料・資源・環境問題の解決に欠かせない、動物医学諸科学に関する専門性を身に付け、課題探究能力を持ち、社会の要請に応じて、積極的に使命指向型科学を遂行できる獣医師</p> <p>(2) 専門以外の領域にも関心を持ち、それらを学習する能力を備え、自然と人間及び社会・文化に関して深い理解と洞察のできる教養豊かな獣医師</p> <p>(3) 豊かなコミュニケーション能力を備え、諸外国の文化を理解し、国際社会において活躍できる獣医師</p> <p>②教育研究上の学習目標</p> <p>(1) 教育においては、知識伝授に限定されず、知の開拓能力・課題解決能力の育成を主眼とし、高い倫理性を有する獣医師や研究者を養成する。</p> <p>(2) 研究においては、学術の展開や社会的な要請に留意しつつ、自由な発想に基づく創造的な獣医学の研究に加えて、社会との連携により総合的・学際的な研究も活発に展開し、獣医師の社会的責任を果たす。</p> <p>(3) 教育と研究の両面で国際的な交流・協力を推進し、世界に学び世界に貢献する。</p> <p>③卒業後の進路など</p> <p>国家公務員(1種(獣医職))、地方公務員(獣医職)、民間企業(製薬、乳業、飼料、食品、動物園、水族館、サファリパーク)、農業法人、農業団体(NOSAI)、小動物病院、大学院</p>
新設学部等において取得可能な資格	<ul style="list-style-type: none"> ・ 獣医師 ①国家資格 ②獣医師国家試験受験資格 ③獣医学科を卒業すると受験資格が得られる ・ 臨床検査技師 ①国家資格 ②獣医師国家試験受験資格 ③獣医学科を卒業すると受験資格が得られる ・ 毒物劇物取扱責任者 ①国家資格 ②獣医師国家試験受験資格 ③獣医学科を卒業すると受験資格が得られる ・ 衛生検査技師 ①国家資格 ②資格取得可能 ③獣医学科を卒業すると資格が得られる ・ 食品衛生責任者 ①国家資格 ②資格取得可能 ③獣医学科を卒業すると資格が得られる ・ 食品衛生管理者 ①国家資格 ②資格取得可能 ③獣医学科を卒業し、関連する職務に就いたときに資格が得られる ・ 食品衛生監視員 ①国家資格 ②資格取得可能 ③獣医学科を卒業し、関連する職務に就いたときに資格が得られる ・ 環境衛生監視員 ①国家資格 ②資格取得可能 ③獣医学科を卒業し、関連する職務に就いたときに資格が得られる ・ 飼料製造管理者 ①国家資格 ②資格取得可能 ③獣医学科を卒業し、関連する職務に就いたときに資格が得られる ・ 家庭用品衛生監視員 ①国家資格 ②資格取得可能 ③獣医学科を卒業し、関連する職務に就いたときに資格が得られる ・ 薬事監視員 ①国家資格 ②資格取得可能 ③獣医学科を卒業し、関連する職務に就いたときに資格が得られる
既設学部等において取得可能な資格	<ul style="list-style-type: none"> ・ 獣医師 ①国家資格 ②獣医師国家試験受験資格 ③獣医学科を卒業すると受験資格が得られる ・ 臨床検査技師 ①国家資格 ②獣医師国家試験受験資格 ③獣医学科を卒業すると受験資格が得られる ・ 毒物劇物取扱責任者 ①国家資格 ②獣医師国家試験受験資格 ③獣医学科を卒業すると受験資格が得られる ・ 衛生検査技師 ①国家資格 ②資格取得可能 ③獣医学科を卒業すると資格が得られる ・ 食品衛生責任者 ①国家資格 ②資格取得可能 ③獣医学科を卒業すると資格が得られる ・ 食品衛生管理者 ①国家資格 ②資格取得可能 ③獣医学科を卒業し、関連する職務に就いたときに資格が得られる ・ 食品衛生監視員 ①国家資格 ②資格取得可能 ③獣医学科を卒業し、関連する職務に就いたときに資格が得られる ・ 環境衛生監視員 ①国家資格 ②資格取得可能 ③獣医学科を卒業し、関連する職務に就いたときに資格が得られる ・ 飼料製造管理者 ①国家資格 ②資格取得可能 ③獣医学科を卒業し、関連する職務に就いたときに資格が得られる ・ 家庭用品衛生監視員 ①国家資格 ②資格取得可能 ③獣医学科を卒業し、関連する職務に就いたときに資格が得られる ・ 薬事監視員 ①国家資格 ②資格取得可能 ③獣医学科を卒業し、関連する職務に就いたときに資格が得られる ・ 中学・高等学校教諭I種(理科・農業) ①国家資格、②資格取得可能 ③卒業要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要

新設学部等の概要	新設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員		
							学位又は称号	学位又は学科の分野		異動元		助教以上
	農学部	共同獣医学科	6	35	—	210	学士(獣医学)	獣医学関係	平成24年4月	農学部獣医学科 新規採用	29 5	9 5
									計	34	14	
既設学部等の概要(現在の状況)	既設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員		
							学位又は称号	学位又は学科の分野		異動先		助教以上
	農学部	獣医学科(廃止)	6	35	—	210	学士(獣医学)	獣医学関係	平成16年4月	共同獣医学科 退職	29 4	9 4
									計	33	13	

【備考欄】

共同獣医学科は、岩手大学農学部との共同設置である。

基礎獣医学科目群	獣医学概論	1前	岩手大学	2			○			8						ホニバス、集中	
	獣医倫理	1後	東京農工大学	2			○								兼1	集中	
	獣医事法規	1後	岩手大学/東京農工大学	1			○				1				兼1		
	運動器・神経系解剖学	1後	東京農工大学	2			○			1	1				兼1	17*1	
	内臓・脈管系解剖学	2前	岩手大学	2			○			1	1				兼1	17*2	
	解剖学実習	2前・後	岩手大学/東京農工大学	3				○		2	2						
	組織学	2前	岩手大学	2			○			1					兼1	17*2	
	組織学実習	2前	岩手大学/東京農工大学	1				○		2	2						
	発生学	2後	東京農工大学	1			○								兼1	17*1	
	統合生理学	2前	東京農工大学	2			○			1	1				兼1	17*1	
	器官制御生理学	2後	岩手大学	2			○			1	1				兼1	17*2	
	内分泌学	3前	岩手大学/東京農工大学	2			○			6	2						ホニバス
	生理学実習	2後	岩手大学/東京農工大学	1				○		2	2		1				
	獣医遺伝育種学	2前	岩手大学/東京農工大学	1			○								兼2		
	動物行動学	2後	東京農工大学	2			○				1				兼1	17*1	
	実験動物学	2前	岩手大学	2			○			1					兼1	17*2	
	実験動物学実習	2後	岩手大学/東京農工大学	1				○		2					兼1		
	基礎放射線学	2後	岩手大学/東京農工大学	2			○			1	1				兼1		
	獣医基礎生化学	2後	岩手大学	2			○			1	2						17*2
	獣医代謝生化学	3前	東京農工大学	2			○			1							17*1
	生化学実習	3前	岩手大学/東京農工大学	1				○		1	3						
	基盤薬理学	3前	東京農工大学	2			○			1	1				兼1	17*1	
	統合薬理学	3後	岩手大学	2			○			1							17*2
	薬理学実習	3前	岩手大学/東京農工大学	1				○		1	2						
小計 (24科目)	—		41	0	0		—		8	8	0	0	0	兼15			
病態獣医学科目群	微生物学総論	2後	東京農工大学	2			○			1				兼2	17*1		
	病原微生物学	3前	岩手大学	2			○		1	1				兼1	17*2		
	微生物学実習	2後・3前	岩手大学/東京農工大学	2				○	1	2				兼3			
	免疫学	3後	東京農工大学	2			○		1	1							17*1
	原虫・原虫病学	3前	岩手大学	2			○		1					兼1	17*2		
	蠕虫・蠕虫病・衛生動物学	3後	岩手大学	2			○		1					兼1	17*2		
	寄生虫学実習	3後	岩手大学/東京農工大学	1				○	1			1		兼1			
	動物感染症学	3後	東京農工大学	3			○		1			1		兼3	17*1		
	家禽疾病学	4前	岩手大学	2			○		1								17*2
	魚病学	4後	岩手大学/東京農工大学	2			○								兼2		
	動物病理学総論	4前	東京農工大学	2			○		1	1	1						17*1
	動物病理学各論A (主要臓器)	4後	岩手大学	2			○		1								17*2
	動物病理学各論B (他臓器・組織)	4後	岩手大学/東京農工大学	2			○		2	1	1						
	病理学実習	4前・後	岩手大学/東京農工大学	2				○	2	1	1	1					
小計 (14科目)	—		28	0	0		—		10	5	1	3	0	兼14			
公衆衛生学総論	3前	岩手大学/東京農工大学	1			○		1	1		1			兼1			

専門教育科目

応用獣医学科目群	疫学	3前	東京農工大学	2			○			1				兼2	17*1	
	人獣共通感染症学	3後	岩手大学	2			○		1						17*2	
	環境衛生学	3後	岩手大学	2			○			1				兼1	17*2	
	公衆衛生学実習	3後	岩手大学/東京農工大学	1				○	1	1		1			兼1	
	毒性学	3前	東京農工大学	2			○				1				兼1	17*1
	毒性学実習	3前	岩手大学/東京農工大学	1				○	1		1				兼2	
	動物衛生学	3後	東京農工大学	2			○		1	1					兼3	17*1
	動物衛生学実習	3後	岩手大学/東京農工大学	1				○	1	1					兼3	
	野生動物学	3後	岩手大学/東京農工大学	1			○			1					兼1	
	食品衛生学	4前	東京農工大学	2			○		1			1				17*1
	食品衛生学実習	4前	岩手大学/東京農工大学	1				○	2			1				
	公衆衛生実践実習	3・4前	岩手大学/東京農工大学	1				○	10	5	1	3				
	小計 (13科目)	—			19	0	0	—		10	5	1	3	0	兼15	
小動物臨床獣医学科目群	内科学総論	4前	岩手大学/東京農工大学	1			○		4	2		2			オムハス	
	呼吸器病・循環器病学	4前	東京農工大学	2			○			1	1				17*1	
	消化器病学	4後	岩手大学/東京農工大学	2			○		5	3		1		兼1	オムハス	
	外科学総論	4前	岩手大学/東京農工大学	1			○		2	4	3			兼1	オムハス	
	麻酔学・手術学	4前	岩手大学/東京農工大学	1			○		1	4	3			兼2	オムハス	
	軟部外科学	4後	岩手大学/東京農工大学	1			○		2	3	2			兼1	オムハス	
	小動物内科学実習・基礎編	4前	岩手大学/東京農工大学	1				○	1	3		3				
	小動物内科学実習・応用編	4後	岩手大学/東京農工大学	1				○		1		3				
	小動物外科学実習・基礎編	4前	岩手大学/東京農工大学	1				○	1	2	3	1		兼2		
	小動物外科学実習・応用編	4後	岩手大学/東京農工大学	1				○	1	2	3	1		兼2		
	内分泌病・皮膚病学	5前	東京農工大学	2			○		3	1				兼1	17*1	
	代謝病・中毒学	5後	岩手大学/東京農工大学	1			○		6	2		2		兼2	オムハス	
	血液免疫病学	5後	岩手大学/東京農工大学	1			○		4	1		1		兼1	オムハス	
	神経病・運動器病学	5前	岩手大学	2			○		1						17*2	
	泌尿器病・生殖器病学	5後	岩手大学	2			○			1				兼1	17*2	
	臨床病理学	5後	岩手大学/東京農工大学	2			○		5	2		2		兼2	オムハス	
	臨床薬理学	5前	東京農工大学	1			○		1	1				兼1	17*1	
	臨床腫瘍学	5後	岩手大学/東京農工大学	2			○		3	1	1			兼2	オムハス	
	臨床栄養学	5後	岩手大学/東京農工大学	1			○							兼2		
	画像診断学	5前	岩手大学/東京農工大学	2			○		1	1	1			兼1	オムハス	
画像診断実習	5前	岩手大学/東京農工大学	1				○		1	1	1		兼1			
眼科学	6前	東京農工大学	1			○			1					17*1		
動物行動治療学	6前	東京農工大学	1			○			1				兼1	17*1		
総合参加型臨床実習Ⅰ	5前	岩手大学/東京農工大学	1				○	5	5	3	5			兼3		
総合参加型臨床実習Ⅱ	5前	岩手大学/東京農工大学	1				○	5	5	3	5			兼3		
総合参加型臨床実習Ⅲ	5後	東京農工大学	1				○	3	4	3	2		兼1	集中		
総合参加型臨床実習Ⅳ	5後	東京農工大学	1				○	3	4	3	2		兼1	集中		
小計 (27科目)	—			35	0	0	—		6	5	3	5	0	兼20		

実証獣医学科目

大動物臨床獣医学科目群	繁殖機能制御学	4前	岩手大学	2			○			1	1					※17*2
	臨床繁殖学	4後	東京農工大学	2			○			1	1					※17*1
	繁殖機能制御学実習	4前	岩手大学/東京農工大学	1				○		2	2					
	臨床繁殖学実習	4後	岩手大学/東京農工大学	1				○		2	2					
	産業動物内科学	5前	岩手大学	2			○			1	1					※17*2
	産業動物外科学	5前	岩手大学	2			○			1						※17*2
	馬臨床学	5後	岩手大学	1			○								兼1	※17*2
	大動物臨床実習・基礎編	5前	岩手大学/東京農工大学	1				○		2	1		1		兼2	
	大動物臨床実習・応用編	5前	岩手大学/東京農工大学	1				○		4	3		1		兼2	
	総合参加型臨床実習V	6前	岩手大学	1				○		3	2		1		兼4	集中
	総合参加型臨床実習VI	6前	岩手大学	1				○		3	2		1		兼4	集中
	小計(11科目)	—		15	0	0		—		4	3	0	1	0	兼13	
選択科目	インターンシップ	3・4・5前後	岩手大学/東京農工大学		1			○								集中
	海外実習	3・4・5前後	岩手大学/東京農工大学		1			○								集中
	人と動物関係学	2前	岩手大学		2		○								兼1	集中
	動物品種論	3前	岩手大学		2		○		2						兼1	集中
	食品安全管理学	4前	岩手大学		2		○		1							集中
	動物園動物学	2後	東京農工大学		2		○								兼3	集中
	国際感染症制御学	3後	東京農工大学		2		○								兼3	集中
	動物病院経営学	4後	東京農工大学		2		○								兼3	集中
小計(8科目)	—		0	14	0		—		3	0	0	0	0	兼11		
専修科目	獣医学演習	4後・5前	岩手大学/東京農工大学	4				○		28	21	4	9	0	兼6	
	卒業研究	5後, 6前後	岩手大学/東京農工大学	10				○		28	21	4	9	0	兼6	
	小計(2科目)	—		14	0	0		—		28	21	4	9	0	兼6	
合計(210科目)		—		188	147	0		—		28	21	4	9	0	兼68	
※ 備考欄の*1は、岩手大学所属学生がメディアによる受講、*2は、東京農工大学所属学生がメディアによる受講を表す。																
学位又は称号	学士(獣医学)			学位又は学科の分野				獣医学関係								

I 設置の趣旨・必要性

我が国の獣医学教育を取り巻く環境は、近年の食の安全確保、人獣共通感染症への対応、獣医療ニーズの多様化・高度化などへの対応がせまられている。世界の獣医学教育の潮流としては、欧州連合において獣医学教育の大幅な改革により、共通基準と評価のシステムが構築されている。国際獣疫事務局（OIE）は、より専門性の備わった獣医師が生み出せるように獣医学教育を変えていくことを目的として、2010年に「高品質な国の獣医サービスを提供するために必要な最低限の獣医学科卒業生が身につけるべき資質」を策定し、獣医学教育の国際基準について検討がなされるなど、防疫需要等の増大に対応しうる国際的通用性を備えた人材の養成が求められている。

平成17年1月の中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の中において、国際的通用性のある大学教育を実施する上で、社会が発展していくための基盤として新しい知識を創造するとともに、その知識や技術などを高度に活用する高い専門性を持った人材を育成することが不可欠であるとされた。平成20年9月に文部科学大臣から中央教育審議会に対して、大学に教育の質保証と社会からの信頼性を一層高めるために、獣医学教育を含む社会的要請の特に高い分野における人材養成について、教育課程の充実等を含む「中長期的な大学教育の在り方について」の諮問があった。この諮問の趣旨を具現化するためには、グローバル化する知的基盤社会の中で、国際的通用性を備えた質の高い教育を行うことが必須であり、特に、教育の質の保証の観点から、医学、歯学、薬学等、他の医療系専門職の養成機関においては、全ての学生が履修すべき必要不可欠な教育内容を整理したモデル・コア・カリキュラムが作成されるなど、教育課程の充実方策の検討が進められている。

このような背景のもと、文部科学省の「獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」において獣医学教育の充実の検討が進められており、獣医学教育は獣医師としての高い倫理性と論理性を兼ね備えるとともに、高度専門職業人としてのスキルを身につけた人材養成が必要となってきている。

一方、獣医師に対する社会的需給は、「獣医師の需給に関する検討会報告書（農林水産省、平成19年5月）」において、伴侶動物の診療獣医師数は、ほぼ充足かやや過剰とされているものの、2010年におけるイヌの飼育頭数は1,277万頭（推定値）、ネコの飼育頭数は1,088万頭（推定値）を数え、年間診療回数は平均でイヌ3.3回、ネコ2.0回となっており、獣医療技術の高まりに伴うイヌ、ネコの高齢化、コンパニオンアニマルとしてのイヌ、ネコの健康管理に対する飼育者の関心の高まりなど、基幹病院としての大学附属動物病院の機能付与などによる、高度な先端医療技術開発のニーズが高まってきている。また、産業動物診療の獣医師数は約600名程度不足し、家畜衛生や公衆衛生分野における公務員獣医師数は、その定員数に変化はないとしても、退職者数をカバーできない新規就業者数で推移し、慢性的な要員不足に陥るとされており、獣医師の職域偏在化の是正が求められている。さらに、口蹄疫対策検証委員会報告書（農林水産省、平成22年11月24日）においては、産業動物に対する獣医学教育でその意義や魅力についての教育機会が少ないこと、大学での実習や卒業後研修が不十分であることなどの教育システムの不備から獣医師の職域偏在化が進んでおり、獣医学系大学における産業動物に関する実習の強化、研修の強化などにより産業動物に関する獣医療体制を実効あるものとするように強化推進すべきとの指摘がなされた。

既存の獣医学課程又は獣医学科における獣医学教育として、次のような点が課題としてあがっている。

- ・獣医師の職域や社会的役割、関連法規、獣医倫理等を扱う導入教育のあり方
- ・学生への動機付けや獣医学教育に対する理念醸成のあり方
- ・実践的な教育として、応用分野や臨床分野に係る教育内容の高度化
- ・基礎・応用・臨床の全分野における実習内容を強化し、理論から実践へ繋げる教育体系の充実
- ・応用・臨床分野の講義科目や実習科目で取り扱う内容の高度化
- ・実習段階における施設整備が不十分であり、実習の機会が確保されていない。
- ・近年の学問の進展や社会ニーズの高まりから新たに必要性の高まった分野は、専門性のある教員の不足や共通的なテキスト等の未整備等の理由から、教育内容・教育体制がともに不十分であるなどの獣医学教育の高度専門職業人養成に向けて克服すべき問題が多数存在している。

また、文部科学省の獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議においても、

- ・社会的ニーズに対応した人材養成の高度化
 - ・獣医師養成における国際的通用性の確保
 - ・我が国の大学教育改革を踏まえた教育内容・方法の改善促進
- などが、今後の獣医学教育に必須であると指摘しており、その改善の具体的な方策の一つとして、専門職業人としての獣医学教育の標準化を図るため、わが国の獣医学教育で目指すべき理念、目的を明確にし、すべての獣医系大学で共通して教育すべき到達目標・内容を整理したモデル・コア・カリキュラムを策定し、教育内容・方法の改善促進を推進する必要性が高いことを報告している。

これらの指摘を契機として、岩手大学では、国際的な視野を持ち、幅広い教養と専門性を備えた多様な人材、高度専門職業人及び研究者の育成を目指すことを目的として、中期目標で「岩手県内をはじめとする他大学との教育連携を推進する」ことを掲げた上で、中期計画においては「獣医学に係る専門教育プログラムの他大学との共同実施について検討を進める」とし、東京農工大学では、大学院及び学部における教育研究体制の充実に資することを目的として、中期目標で「他大学と連携し、大学院の拡充を図るとともに、学部教育の充実を目指す」ことを掲げた上で、中期計画においては「他大学との共同獣医学科（共同獣医学科）の設置構想について検討を進める」としており、これに基づく早急な共同獣医学科の設置を推進するものである。

また、こうした現状分析や内外の動向を踏まえ、獣医学教育の諸課題等を解決するために、東日本における産業動物獣医療の教育に実績を有する岩手大学と首都圏を中心とした伴侶動物獣医療の教育の実績を有する東京農工大学は、協力して共同獣医学科を設置し、一大学では成し遂げることができない臨床分野や公衆衛生分野の強化をはじめとする複雑化・高度化する獣医療に対応した実践的な獣医学教育と、「獣医学教育モデル・コア・カリキュラムに関する調査研究委員会」が策定した獣医師国家試験科目である18科目を包含したモデル・コア・カリキュラム（平成23年度版）を基盤とした獣医学教育を実施することにより、高度な知識と技術を併せ持った、国際的通用性のある獣医師を養成するものである。

そのため岩手大学と東京農工大学は両大学の緊密な教育連携のもとで、スケールメリットを生かし、優れた人材を養成する教員配置体制を構築し、国際水準にある獣医学教育を行う。その方策として、現行の両大学における獣医学教育の詳細な内容精査を行い、両大学の特色ある教育資源を効果的に活用し、国際的水準を満たす獣医学教育の充実を図る教育体系を構築することを目的とする。

さらに、本共同獣医学科は、供給が不足する産業動物に関わる家畜衛生や公衆衛生分野における獣医師養成の強化と、伴侶動物等に関わる高度獣医療技術の習得を強化するため、東日本に位置する岩手大学と東京農工大学がこれまでの実績を活かし、東日本における獣医学教育の拠点としての役割を担う大学として獣医師の養成に努めるだけにとどまらず、既に獣医師として活動する者に対する卒業後教育を充実させることにより東日本地域における獣医師の資質や能力の高度化を図るものである。

II 教育課程編成の考え方・特色

本共同獣医学科では、「人類と動物の健康と福祉に貢献する」ことの実現するために、教育および到達目標が同一である1) 共通教育科目、2) 専門教育科目、3) 専修コースならびに4) 卒業教育に体系化して教育課程を編成する。共通教育科目の履修に関しては、岩手大学教育総合センターならびに東京農工大学大学教育センターが中心となっており、全学的体制により実施する。専門教育科目においては基盤獣医学科目、実証獣医学科目、選択科目、専修科目に分類する。基盤獣医学科目には、基礎獣医学科目群、病態獣医学科目群、応用獣医学科目群が、実証獣医学科目には小動物臨床獣医学科目群と大動物臨床獣医学科目群から構成される。なお、共通教育科目として岩手大学開講分として22科目41単位、東京農工大学開講分として23科目41単位を設定し、54科目76単位はそれぞれの大学で開講する通常科目とする。

本編成方針をもとに、1) 共通教育科目では、獣医学の基盤となる高等動物の生命科学に対する知識とともに、人文社会科学の諸分野の課題について学ぶ。

2) 専門教育科目では、獣医師として必要な専門的知識を習得させるため、次の教育科目を修得する。

①基礎獣医学科目群では、獣医師の任務を遂行する上で必要な倫理性および論理性を涵養し、獣医学の根源をなす生命の基本的な成り立ちを分子レベルから個体レベルに至るまで理解することを目的とする。

②病態獣医学科目群では、動物の病的な状態がどのようにして発生するかを理解し、生体の恒常性を乱す多様な外的要因(細菌、ウイルス、真菌、寄生虫等の病原体)などについて分子から個体に至る様々なレベルで理解する。

③応用獣医学科目群では、動物とヒトの疾病予防の方策を理解し、ヒトの健康(公衆衛生)と、動物の疾病予防(動物衛生)を実現するための能力を身につける。

④小動物・大動物臨床獣医学科目群では、各種動物の疾病の的確な診断、治療および予防を実現する能力を涵養すると同時に、実践的参加型臨床実習により、高度化する伴侶動物獣医療と産業動物獣医療に必要な知識・技術を身につける。

これらはモデル・コア・カリキュラムに準拠した編成とするとともに、特に公衆衛生と臨床獣医学教育科目を充実する。公衆衛生学教育においては食品安全管理学や新たに加えた国際感染症制御学を開講することにより、食の安全と家畜伝染病の制御法に関する知識の習得と深化が図られる特徴がある。臨床教育においては小動物と大動物臨床の専任教員を配置し、地域との連携のもとに実践的参加型臨床教育6単位を新たに展開する。

また、3) 専修コースにおいては、卒業後の進路希望に応じて当該分野の専門的知識と技術力を高める。4) 卒業教育においては、附属動物病院における研修医制度ならびに付属施設を有効に活用した研修制度を有機的に展開する。

開設科目については、必修、選択とし、卒業に必要な取得単位数は両大学ともに同じとする。

1) 共通教育科目(必修19単位、選択25単位)

獣医師には、地球上全ての動物生命の健康と繁栄に責任を負う自然科学としての獣医学を背景とし、論理性および倫理性を兼ね備えた高い行動規範が求められる。共通教育科目は、その基盤となる基礎的知識の習得を求め、多様な領域に対する学問的関心を喚起することで幅広く深い総合的な判断力を培い、獣医師として豊かな人間性を涵養することが目的である。共同獣医学科における共通教育科目は、「大学教育導入科目群」、「スポーツ健康科目群」、「外国語科目群」、「人文社会科学科目群」、「理数系基盤科目群」および「配置大学特色科目群」によって構成され、獣医学を学ぶに必要な基礎的知識を習得させるものであり、それぞれの大学で開講する。

2) 専門教育科目(99科目、必修152単位、選択6単位、1~6年次開講)

獣医師は、飼育動物に関する診療及び保健衛生の指導その他の獣医事を司ることによって、動物に関する保健衛生の向上及び畜産業の発展を図り、併せて公衆衛生の向上に寄与することが求められている。共同獣医学科においては、多様化する獣医師の職務を遂行する上で必要な知識・技能を習得させることに加え、専門分野・職域別に求められる実践的な知識・技能を養成し、日本および世界における喫緊の共通課題を解決する能力を有し、社会に貢献する獣医師に必要な基盤を涵養する。

以上のカリキュラムに加え、4年次後期からの高学年次には、卒業後の進路選択をする上で有用な基礎的知識と技術、問題解決能力のスキルアップを図るため、獣医学演習や卒業研究を行うにあたり、基盤獣医学科目を教授する教員が指導する先端生命科学(基礎、病態、応用分野)および実証獣医学科目を教授する教員が指導する高度獣医療(小動物臨床、大動物臨床)の2専修分野を設置し、学生が両大学の専修分野を選択することを可能とするなど、一大学では成しえなかった獣医学教育をより高度化し、実践できる体制とする。

参加型実習を有効に実施するために、総合参加型臨床実習において、附属動物病院内に必要な備品などを整備し、疾病診断プロセス、臨床検査などの一連の診断・治療過程が体得できる体制を構築する。また、岩手県獣医師会やNOSAI東北家畜臨床研修センターなどと連携し、実習プログラムに沿った臨床例の情報を集積することにより、近隣フィールドを活用した、少人数の班編制での密度の高い実習を行い、より実践的な教育を実現するために見学型実習から参加型実習への具体化を推進する。

卒業要件及び履修方法	開設大学	開設単位数(必修)	授業期間等	
共通教育科目から必修科目19単位、選択科目25単位の計44単位を修得するとともに、専門科目から必修科目152単位、選択科目6単位の計158単位を修得し、合計202単位以上修得すること。	岩手大学	204(128)	1学年の学期区分	2学期
	東京農工大学	203(130)	1学期の授業期間	15週
			1時限の授業時間	90分

専門教育科目

基礎獣医学科目

基礎放射線学	基礎放射線学	2後	2			○									兼1
	獣医代謝生化学	3前	2			○			1						
	生化学実習	3前	1					○	1	1					
	基礎薬理学	3前	2			○			1	1					兼1
	薬理学実習	3前	1					○	1	1					
	小計 (17科目)	—	27	0	0			—	4	4	0	0	0		兼10
病態獣医学科目群	微生物学総論	2後	2			○				1					兼2
	微生物学実習	2後・3前	2					○		1					兼2
	免疫学	3後	2			○			1	1					
	寄生虫学実習	3後	1					○				1			兼1
	動物感染症学	3後	3			○			1			1			兼3
	魚病学	4後	2			○									兼1
	動物病理学総論	4前	2			○			1	1	1				
	動物病理学各論B (他臓器・組織)	4後	2			○			1	1	1				
	病理学実習	4前・後	2					○	1	1	1				
	小計 (9科目)	—	18	0	0			—	5	3	1	2	0		兼9
応用獣医学科目群	公衆衛生学総論	3前	1			○			1			1			
	疫学	3前	2			○				1					兼2
	公衆衛生学実習	3後	1					○	1			1			
	毒性学	3前	2			○					1				兼1
	毒性学実習	3前	1					○			1				兼1
	動物衛生学	3後	2			○			1	1					兼3
	動物衛生学実習	3後	1					○	1	1					兼2
	野生動物学	3後	1			○				1					
	食品衛生学	4前	2			○			1			1			
	食品衛生学実習	4前	1					○	1			1			
	公衆衛生実践実習	3・4前	1					○	5	3	1	2			
	小計 (11科目)	—	15	0	0			—	5	3	1	2	0		兼9
小動物臨床獣医学科目群	内科学総論	4前	1			○			2	2		2			
	呼吸器病・循環器病学	4前	2			○				1	1				
	消化器病学	4後	2			○			3	2		1			オムニバース
	外科学総論	4前	1			○			1	3	3				兼1 オムニバース
	麻酔学・手術学	4前	1			○				3	3				兼1 オムニバース
	軟部外科学	4後	1			○			1	2	2				オムニバース
	小動物内科学実習・基礎編	4前	1					○	1	3		1			
	小動物内科学実習・応用編	4後	1					○		1		1			
	小動物外科学実習・基礎編	4前	1					○	1	2	3				兼1
	小動物外科学実習・応用編	4後	1					○	1	2	3				兼1
	内分泌病・皮膚病学	5前	2			○			3	1					兼1
代謝病・中毒学	5後	1			○			4	2		2			オムニバース	

実証獣医学科目	血液免疫病学	5後	1			○			2	1		1		兼1	オムニバス	
	臨床病理学	5後	2			○			3	2		2			オムニバス	
	臨床薬理学	5前	1			○			1	1				兼1		
	臨床腫瘍学	5後	2			○			2		1				オムニバス	
	臨床栄養学	5後	1			○								兼1		
	画像診断学	5前	2			○				1	1				オムニバス	
	画像診断実習	5前	1					○		1	1					
	眼科学	6前	1			○				1						
	動物行動治療学	6前	1			○				1					兼1	
	総合参加型臨床実習Ⅰ	5前	1					○	3	4	3	2			兼1	
	総合参加型臨床実習Ⅱ	5前	1					○	3	4	3	2			兼1	
	総合参加型臨床実習Ⅲ	5後	1					○	3	4	3	2			兼1	集中
	総合参加型臨床実習Ⅳ	5後	1					○	3	4	3	2			兼1	集中
	小計 (25科目)	—	31	0	0			—	4	4	3	2	0		兼13	
大動物臨床獣医学科目群	臨床繁殖学	4後	2			○			1	1						
	繁殖機能制御学実習	4前	1					○	1	1						
	臨床繁殖学実習	4後	1					○	1	1						
	大動物臨床実習・基礎編	5前	1					○							兼2	
	大動物臨床実習・応用編	5前	1					○	1	1					兼2	
	小計 (5科目)	—	6	0	0			—	1	1	0	0	0		兼4	
選択科目	インターンシップ	3・4・5 前後		1				○							集中	
	海外実習	3・4・5 前後		1				○							集中	
	動物園動物学	2後		2		○								兼3	集中	
	国際感染症制御学	3後		2		○								兼3	集中	
	動物病院経営学	4後		2		○								兼3	集中	
	小計 (5科目)	—	0	8	0			—	0	0	0	0	0		兼9	
専修科目	獣医学演習	4後・5前	4					○	14	12	4	4	0		兼3	
	卒業研究	5後, 6前後	10					○	14	12	4	4	0		兼3	
	小計 (2科目)	—	14	0	0			—	14	12	4	4	0		兼3	
合計 (128科目)		—	130	73	0			—	14	12	4	4	0		兼34	
学位又は称号		学士 (獣医学)			学位又は学科の分野				獣医学関係							
卒業要件及び履修方法									授業期間等							
共通教育科目から必修科目19単位、選択科目25単位の計44単位を修得するとともに、専門科目から必修科目152単位、選択科目6単位の計158単位を修得し、合計202単位以上修得すること。									1学年の学期区分				2学期			
									1学期の授業期間				15週			
									1時限の授業時間				90分			

	職業指導（農業）	2前			2			○							兼1	
	FS実験実習	2前			1			○							兼1 農学部教員	
	小計（10科目）	—	2	10	4	—									兼13	—
基礎獣医学科目	獣医学概論	1前	2					○		12	2					
	情報処理学	1前	2					○							兼1	
	獣医解剖学Ⅰ	2前	2					○			1				兼1	
	獣医解剖学Ⅱ	2前	2					○			1				兼1	
	獣医解剖学実習	2前, 2後	3						○	1	1					
	獣医組織学Ⅰ	2前	1					○		1						
	獣医組織学Ⅱ	2後	2					○		1						
	獣医組織学実習	2後	1						○	1	1					
	獣医発生学	2前	1					○							兼1	
	獣医生理学Ⅰ	1後	2					○		2					兼1	
	獣医生理学Ⅱ	2前	2					○							兼1	
	獣医生理学Ⅲ	2後	2					○		2						
	獣医生理学実習	3前	1						○	2						
	獣医生化学	2後	2					○							兼1	
	獣医生化学実習	2後	1						○	2						
	獣医微生物学Ⅰ	2後	2					○		1	1					
	獣医微生物学Ⅱ	3前	2					○		1	1					
	獣医微生物学Ⅲ	3後	2					○		1	1					
	獣医微生物学実習	3前	1						○	1	1					
	免疫学	3前	2					○		1	1					
	家畜飼養学	3前	2					○							兼1	
小計（21科目）	—	37	0	0	—				12	2				兼4	—	
病態獣医学科目	獣医薬理学Ⅰ	3前	2					○		1	1					
	獣医薬理学Ⅱ	3後	2					○		1	1					
	獣医臨床薬理学	4前	2					○		1	1					
	獣医薬理学実習	3前	1						○	1	1					
	獣医病理学総論Ⅰ	3前	2					○		1	1	1				
	獣医病理学総論Ⅱ	3後	2					○		1	1	1				
	獣医病理学各論Ⅰ	4前	2					○		1	1	1				
	獣医病理学各論Ⅱ	4後	2					○		2	1	1				
	獣医病理学実習Ⅰ	4前	1						○	1	1	1				
	獣医病理学実習Ⅱ	4後	1						○	1	1	1				
	獣医寄生虫学Ⅰ	3前	2					○					1		兼1	
	獣医寄生虫学Ⅱ	3後	2					○					1		兼1	
	毒性学	5後	2					○				1				
小計（13科目）	—	23			—				2	2	1	1		兼2	—	
応用獣医学科目	獣医衛生学Ⅰ	4前	2					○		1	1					
	獣医衛生学Ⅱ	4後	2					○		1	1					
	獣医衛生学実習	4後	1						○	1	1					
	公衆衛生学Ⅰ	3後	2					○		1						
	公衆衛生学Ⅱ	4前	2					○		1						
	公衆衛生学Ⅲ	4後	2					○		1			1			
	公衆衛生学実習Ⅰ	4前	1						○	1			1			
	公衆衛生学実習Ⅱ	4後	1						○	1			1			
	疫学	4前	2					○		1	1					
	獣医伝染病学Ⅰ	3後	2					○		1			1			
	獣医伝染病学Ⅱ	4前	2					○		1			1			
	獣医伝染病学Ⅲ	4後	2					○		1			1			
	獣医伝染病実習	3後	1						○	1			1			
	実験動物学	3前	2					○		1	1		1			
	放射線生物学	3後	1					○							兼1	
	獣医畜産事情	5後	2					○							兼2	
	生物統計学	5前	2					○							兼1	集中
小計（17科目）	—	29			—				4	2		4		兼4	—	
獣医臨床総論	1後	2					○		5	1						

学科専門科目

